

日本史
探究

高校日本史

佐藤信
五味文彦
高埜利彦
鈴木淳

令和5年度用
(2023年度用)

山川出版社
内容解説資料

この資料は令和5年度用高等学校
教科書の内容解説資料として
一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に
則っております。

豊富な材料で楽しく学べる
生徒が読んでわかる教科書

ダイジェスト版

山川出版社

第Ⅰ部 原始・古代

第Ⅱ部 中世

第Ⅲ部 近世

第Ⅳ部 近代・現代

配当時間例
(月/時数)

第1章 日本文化のあけぼの

1 日本文化の始まり	6	3
2 農耕の開始	11	
歴史資料と原始・古代の展望		
①古代社会と海外との交流	16	4月 2
②木簡から古代国家をさぐる	18	

第2章 古墳とヤマト政権

1 古墳文化の展開	20	3
2 飛鳥の朝廷	25	

第3章 律令国家の形成

1 律令国家への道	29	6
2 平城京の時代	34	
3 律令国家の文化	38	
4 律令国家の変容	42	5月

第4章 貴族政治の展開

1 摂関政治	48	4
2 国風文化	52	
3 荘園の発達と武士団の成長	55	

第5章 院政と武士の進出

1 院政の始まり	60	3
2 院政と平氏政権	63	6月
歴史資料と中世の展望		
絵画から中世社会をさぐる	68	2

第6章 武家政権の成立

1 鎌倉幕府の成立と展開	72	6
2 モンゴル襲来と幕府の衰退	78	
3 鎌倉文化	82	7月

第7章 武家社会の成長

1 室町幕府の成立	86	8
2 下剋上の社会	93	
3 室町文化	98	
4 戦国の動乱	103	



凡例

1. 年代は西暦を主とし、日本の年号は()の中に入れた。明治5年までは日本暦と西暦とは1カ月前後の違いがあるが、年月はすべて日本暦をもとにし、西暦に換算しなかった。たとえば天正14年12月1日は、西暦では1587年1月9日であるが、1586(天正14)年12月とした。改元のあった年は、その年の初めから新しい年号とした。たとえば慶応4年は9月8日に改元して明治元年となったが、この年のことはすべて1868(明治元)年とした。
2. 史料引用はできるだけ必要な部分にとどめ、その際も前略・後略は特別には記さなかった。また、読みやすく書き改めたところもある。漢文・和様漢文・和漢混清文は、原則として読み下した。法令などの史料には、適宜、第何条にあたるかを示す数字をつけた。
3. 国名は、次のように表記する場合がある。[日本：日 中国：中 韓国：韓 アメリカ：米 ロシア：露 イギリス：英 フランス：仏 ドイツ：独 オーストリア：奥 イタリア：伊 オランダ：蘭 ソヴィエト社会主義共和国連邦：ソ]

各時代・各分野をバランスよく構成しています。

第8章 近世の幕開け

1 天下人の登場	108	8月 3
2 豊臣政権と桃山文化	112	
歴史資料と近世の展望		
朝鮮通信使	117	2

第9章 幕藩体制の成立と展開

1 江戸幕府の成立	122	9月
2 江戸初期の外交と文化	128	
3 幕政の安定	133	11
4 経済の発展	136	
5 元禄文化	142	

第10章 幕藩体制の動揺

1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化	147	10月 8
2 江戸幕府の衰退	153	
3 化政文化	159	



政治・外交と経済・社会・文化で章を分け、**流れがわかりやすい構成**にしました。

第11章 近世から近代へ

1 開国とその影響	164	3
2 幕府の滅亡と新政府の発足	169	11月
歴史資料と近代・現代の展望		
①議会と選挙権	174	2
②生糸の生産	176	

第12章 近代国家の成立

1 明治維新	178	5
2 立憲国家の成立	186	

第13章 近代国家の展開と国際関係

1 大陸政策の展開	192	12月
2 第一次世界大戦と日本	201	
3 ワシントン体制	206	7

第14章 近代の産業と生活

1 近代産業の発展	212	1月 6
2 近代の文化	218	
3 市民生活の変容と大衆文化	223	

律令国家の形成

各章の導入には、「**章全体にわたる問い**」を設け、時代の転換を探究するための方向性を示しました。

日本は中国の制度を取り入れて律令による国家の枠組みをつくったが、一方で前の時代の国家のあり方をうけついでいる。それはどのようなところにあらわれているだろうか。また日本的な政治のあり方は、どのようにうまれてくるのだろうか。

1 律令国家への道

大化の改新 中国では618年、高句麗遠征に失敗した隋がほろび、唐にかわった。唐は隋にならって、律令という法にもとづいて中央政府が圧倒的な力で支配をおこなう中央集権国家を打ちたて、東アジア諸国に大きな影響をおよぼした。また、唐は隋と同じく高句麗へ遠征し、朝鮮半島にその圧力がおよぶと、高句麗・百済・新羅の3国とともに倭(日本)にも動揺がおこった。倭では、大臣の蘇我蝦夷とその子入鹿が権勢をふるい、聖徳太子(厩戸王)の子の山背大兄王をほろぼして権力を集中しようとしたが、王族中心の中央集権をめざす中大兄皇子や中臣鎌足(のち藤原鎌足)は、645(大化元)年に蘇我父子をほろぼした。皇極天皇にかわった孝徳天皇のもとで、甥の中大兄皇子は皇太子となり、ま

ず朝廷の人事を一新した。そして、唐から帰国した留学生らの知

東アジアの国際的緊張と律令制の形成にはどのような関係があるだろうか。

Topic 天皇号はいつ始まったか

「天皇」という称号は、「大君は神にしませば」とうたわれた天武天皇の時に現人神としてもちいられたとする説がある。一方で推古天皇の時代に外交交渉のなかで「天子」にかわるものとして、考え出されたとの説もある。



7～8世紀のアジア 中国を統一した隋が約30年でほろぶと、それにかわった唐が百済・高句麗をほろぼし、中央アジア方面にも進出して大帝国を築いた。

生徒の興味をひきだすため、本文では取り上げなかった人物や事件などのエピソードを紹介する75点の「Topic」を設けました。

独自の歴史をもつ地域や、文化財保護への関心を高める、**特集ページ**(8テーマ)を設けました。

周辺地域を学ぶ

- ①古代の南九州—隼人— 47
- ②古代の東北と奥州藤原氏 58
- ③琉球王国 106
- ④アイヌと和人 146

身近な文化財をまもり未来につなげる

- ①歴史資料としての文化財 67
- ②災害と文化財 121
- ③地域の文化財から歴史を探究しよう 162
- ④学芸員体験で歴史を語る当事者になろう 191

日本史年表 280
索引 287

古代の行政区画 表見返し
干支、時刻と方位、度量衡 表見返し裏
政党・政派の変遷 裏見返し

学習に便利な付録として、新たに「干支、時刻と方位、度量衡」を設けました。

2次元コードから、より深い理解に役立つ動画や、掲載図版の細部や前後を確認するための画像、文字史料の現代語訳などを見られるようにしています。

第15章 恐慌と第二次世界大戦

- 1 恐慌の時代 228
- 2 軍部の台頭 232
- 3 第二次世界大戦 237

第16章 現代の世界と日本

- 1 占領下の改革と主権の回復 248
- 2 55年体制と高度経済成長 259
- 3 現代の情勢 267

現代日本の課題の探究
地域社会や身のまわりから考えよう 274



くわしく みてみよう (2次元コード)



一遍上人絵伝(巻7) 69 / 洛中洛外図屏風 70 / 江戸図屏風 122 / 富嶽三十六景 160



貝塚 9 / 木簡 36 / 鎌倉街道と切通 73 / 安土城跡 110 / 八幡製鉄所 214 / 金本位制と管理通貨制度 234 (動画はすべてNHK for Schoolのコンテンツです。)



掲載史料中の2次元コードから、現代語訳を表示することができます。
*本書掲載の2次元コードからインターネットを使用した学習ができます。2次元コードの使用にあたって使用料はかかりませんが、通信料がかかります。インターネットを使用する際には、先生の許可を得たうえで使用してください。また、使用にあたっては個人情報の扱いに十分注意してください。

1 大王家の直属民。2 王権の直轄地。3 二五ページ参照。4 おのおのの地位に応じて給付する。5 畿内国の司と読む説もある。6 7 開所。8 北辺の監視要員。9 公的な伝達・輸送に用いられる馬。10 駅鈴と木契。ともに駅馬・伝馬を利用する際の証明とした。11 地方の境界を定める。12 これまでの租税。13 一定基準で田地に賦課する税。



現代語訳

2 改新の詔
 其の一に曰く、昔在の天皇等の立てたまへる子らの民、
 処々の屯倉、及び、別には臣・連・伴造・国造・
 首の所有る部曲の民、処々の田莊を罷めよ。仍りて
 封を大夫より以上に賜ふこと、各差あらむ。
 其の二に曰く、初めて京師を修め、畿内・国司・郡司・
 塞・斥候・防人・駅馬・伝馬・伝馬を置き、及び鈴契の
 造り、山河を定めよ。
 其の三に曰く、初めて戸籍・計帳・班田収授の法を造れ。
 其の四に曰く、旧の賦役を罷めて、田の調を行へ。……
 別に戸別の調を収れ。
 (『日本書紀』)

Topic 古代山城
 古代山城は白村江の戦い後、国土防衛のために対馬から大和地方にかけて百済の亡命貴族の力もかりて築かれた。岡山県総社市にある鬼ノ城もその1つである。城郭は397mの急峻な山の平坦な山頂部に築かれ、城壁がはちまき状に2.8kmにわたりめぐっている。また、要所には堅固な高い石垣や門を築くなどの要害であった。
 (岡山県、鬼ノ城の西門、復元)

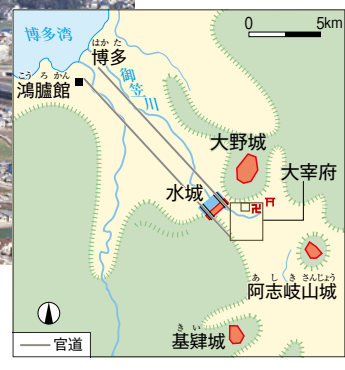
文字史料に付した2次元コードから、現代語訳を参照することができます。史料に苦手意識を持つ生徒の理解を助け、自発的な学習を促します。

- 1 高向玄理・旻を国博士とした。(p.26)
- 2 『日本書紀』にみえる改新の詔は、のちの大宝令などにより書きととのえられていることがわかってい。郡をおいたとあるが、実際には評が設置された。
- 3 いったん位をしりぞいた天皇がふたたび即位することを重祚という。

識を活用して、大化の改新とよばれる一連の政治改革をすすめようとした。また、都を飛鳥から難波に移し、大規模な難波宮をいとなんだ。
 ついで翌646(大化2)年正月、4カ条の改新の詔を発したという。そこには、(1)公地公民制の確立、(2)地方行政組織と軍事・交通制度の整備、(3)戸籍・計帳の作成と班田収授法の施行、(4)統一的な新しい税制の実施などが目標にされたという。ただし、



3 大野城跡と水城跡 右手方向の大宰府の地を防御する配置で、幅約60mの水濠と土塁をもつ水城が造成され、四王寺山に大野城が築かれた。(福岡県)



詔は当時の文章のままとはいえず、その内容がすぐに実現したわけでもなかった。

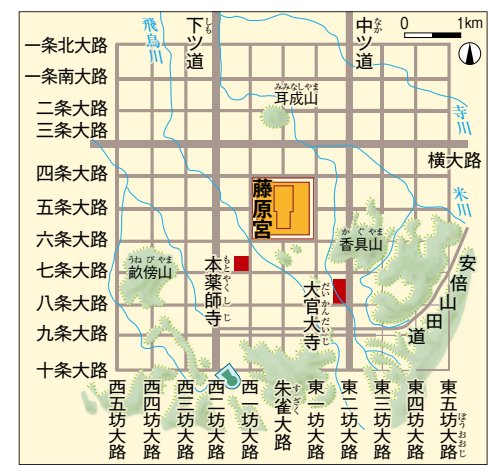
壬申の乱
 朝鮮半島では、唐が新羅と結んで660年に百済、668年には高句麗をほろぼした。その後、新羅は唐の勢力を半島から追い出し、676年に統一をはたした。齐明天皇(皇極天皇重祚)のもとで、倭は抵抗を続ける旧百済勢力を助けるために大軍を送ったが、663(天智2)年の白村江の戦いで唐・新羅連合軍に大敗した。

中大兄皇子は、唐・新羅の進攻にそなえて、九州統治の中心部をまもるための水城や古代山城(朝鮮式山城)を築くなど国防を強化し、権力の集中をすすめ、都を近江の大津に移して、翌年即位した(天智天皇)。近江令を定めたともいわれ、また670(天智9)年には最初の全国的な戸籍である庚午年籍をつくるなど、内政の改革を急いだ。

その後、天智天皇が亡くなると後継争いがおこり、672(天武元年)、天皇の弟大海人皇子は、東国や飛鳥地方の豪族を味方につけ、近江の朝廷をひきいる天智天皇の子大友皇子を倒した(壬申の乱)。戦いに勝って強大な権力を手にした大海人皇子は、都を飛鳥にもどして即位し(天武天皇)、中央集権国家の形成をすすめた。そして、真人・朝臣など8種の姓(八色の姓)を制定して豪族の身分秩序を再編成し、新しい都づくりのほか、歴史書や律令の編さんを始めた。

天武天皇が亡くなったあと、皇后の持統天皇が事業を引きつぎ、飛鳥浄御原令を施行して統治のしくみをととのえた。また国家を運営する中心として、中国の都市理念にならった本格的な都城である藤原京を完成させた。こうして中央集権的な国家体制は、確立していった。

律令国家のしくみ
 701(大宝元年)、大宝律令が制定された。律は今日の刑法にあたり、令は行政に関するさまざまな法規で、唐の律令を手本として、日本の国情にあわせてつくられている。「日本」という国号が定められたのもこのころである。律令による政治を担った中央官庁は、二官八省である。二官とは神祇官と太政官で、神祇官は神々の祭りを司り、太政官が国政を担当した。太政官では左大臣・右大臣・大納言などの公卿とよばれる上級の官人たちが会議をおこない、その結果をふまえて天皇が決定をくだす形式をとった。太政官の下には実務を担当する8つの省(八省)がおかれて、各分野の政務を分担した。各役所には、長官・次官・判官・主典の幹部職員(四等官)がおかれた。全国は畿内・七道に行政区分され、国・郡・里(のちに郷と改称)

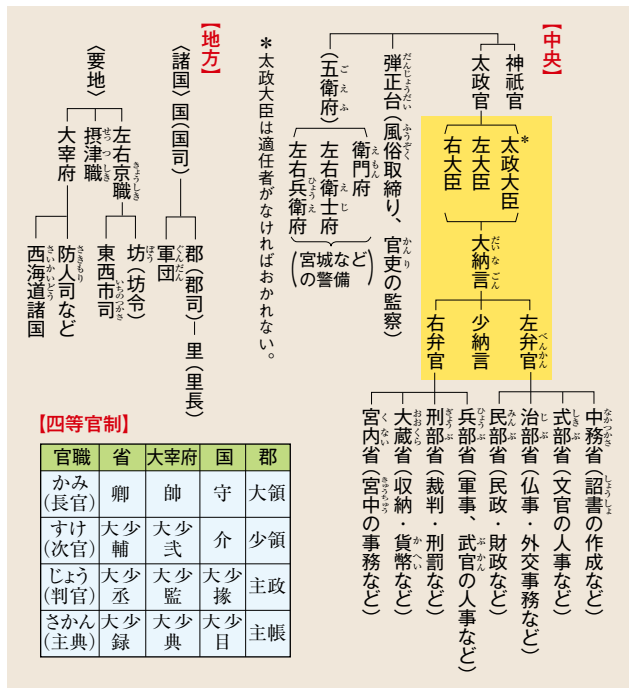


4 藤原京の条坊復元図 藤原京は、約5.3km四方と、のちの平城京とならぶ規模をもつ。東西・南北に走る道路で街区が区画された京域内には、王族や豪族も集住することになった。

Topic 古代宮都の変遷
 本来、都とは、大王が生活する家屋がある場所をさす。大王の宮は代ごとにかわったが、その周辺に豪族や役人が働く街が形成されると、飛鳥に宮が固定され、飛鳥浄御原宮へと発展した。藤原京は日本で最初の条坊制による京をとまなう都城で、その規模はのちの平城京や平安京にならぶものであった。

本文を補足する「注」は、必要な部分を簡潔に記しました。

- 4 大宝律令は失われたが、のちに藤原不比等が中心となり大宝律令を若干改変してつくり、孫の仲麻呂が施行した養老律令が今日に伝わり、大宝律令の内容を知ることができる。
- 5 702(大宝2)年に派遣された遣唐使が、唐に対して倭の国名を日本に改めた。



5 律令官制 中央・地方の官庁には、長官・次官・判官・主典の四等官がおかれたが、官庁により用字が異なった。

Q 地方の統治において、国司と郡司はどのような関係にあったのだろうか。

史資料をもとに、解釈したり、説明したり、論述したりする力をつけられるよう、発展的な問いとして「読みと き」を設けました。(解答例は、教師用指導書・準拠ノートで扱っています)

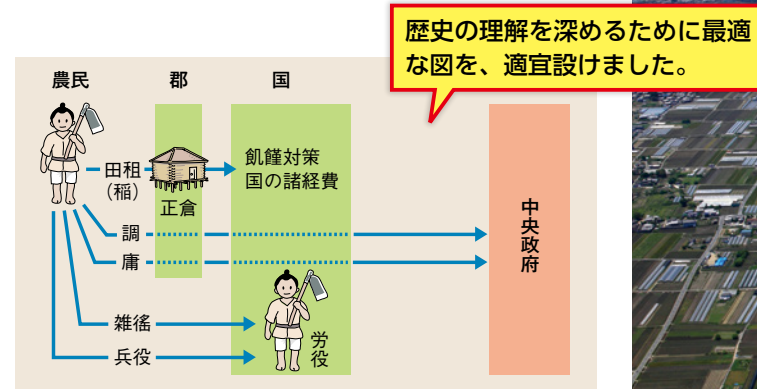
6 天皇に対する謀反や、尊属に対する不孝などを八虐といひ、有位者でも減免されない重罪であった。

7 男性は2段(1段=360歩=約11.9a)、女性はその3分の2、私有の奴婢はそれぞれ3分の1が支給された。

古代の戸籍
現代の家族構成と古代の戸籍をくらべ、現代との違いや当時の家族構成の特徴を説明してみよう。

6 筑前国嶋部川辺里の戸籍 702(大宝2)年の一部。戸主とその家族の氏名・年齢などが記され、全面に「筑前国印」が捺されている。(部分、正倉院宝物)

人びとは戸に編成されたうえで、6年ごとにつくられる**戸籍**に登録された。そのときに6歳以上になっていると、性別・身分に応じて条里制によって区画された**口分田**をわけあたえられた**7**。家屋やその周囲の土地の私有は認めら



7 貢納物のおもな用途 租は地方や中央政府の**飢饉対策**として備蓄された。調・庸は大蔵省や民部省におさめられ、中央政府の経費として使われた。また、成人男性には、地方での雑徭や兵役の負担もあった。

れたが、口分田は売買できず、死者の口分田は国に返還される制度であった**(班田收授法)** **8**。

庶民の負担は、口分田については**租**として**収穫の3%程度**を各郡におかれた**正倉**におさめるのみであったが、成人男性である**正丁**の一人ひとりを対象として税が課せられ、大きな負担となった。

調・庸 **9**は一定量の布や特産品などをおさめるもので、郡司のもとでまとめられ、これを中央政府まで運ぶ**運脚**も義務づけられた。また、年間60日の範囲で、国司の命令により土木工事や雑用に奉仕する**雑徭**という**労役**も定められていた**7**。このほか、国家が春に稲を貸しつけ、秋の収穫時に3~5割の利息とともに徴収する**出挙**(公出挙)もあった。

さらに、正丁3~4人に1人の割合でかかる**兵役**の義務も、それぞれの戸にとっては重要な働き手をとられることになった。徴兵された兵士たちは、ふつうは諸国の軍団に配属されたが、**衛士**となって京の警備にあたり、**防人**となって九州北部の沿岸などにおもむき、防衛の任務につく者もあった。

身分制度では、人びとは良民と賤民**10**にわけられ、良民の多くは農民であった。賤民には官有と私有の者があり、その割合は人口の数%程度であった。

農民たちは、**竪穴住居**や**平地式の掘立柱住居**に住み、簡素な麻の衣服を着ていた。当時の食事は1日2回、米を**甑**でむして食べるのがふつうであった。



8 条里制遺構 班田に便利ように整然と区切られた古代の農地のなごりがみられる。全国に条里制を施行して、口分田をうみ出した。(奈良県)

8 農民のなかには口分田を耕作するかたわら、1年契約で土地を借りて農耕経営をおこなう者もいた**(賃租)**。

9 調は絹・布や地域の特産物を中央にたてまつり、庸は歳役のかわりに布などをおさめるもので、毎年作成される**計帳**にもとづいて徴収された。

10 官有の**陵戸**・**官戸**・**官奴婢**と私有の**家人**・**私奴婢**の5種類があり、五色の**賤**という。宮や寺院、有力豪族の宅などに隷属していた。

2 平城京の時代

遣唐使 中国では唐が大帝國を築いて、全盛期をむかえた。西アジアとの交流もさかんで、都の長安(現在の西安)は世界的な都市として国際的な文化が花開いた。

Q 8世紀の遣唐使は、どのような役割を果たしただろうか。

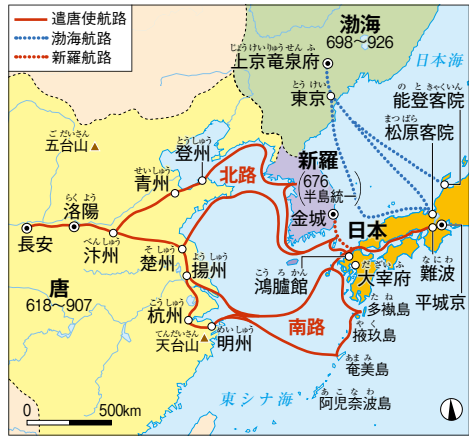
1 中国の皇帝が周辺諸民族の君主に官職・称号などをさずけ国王に任ずることを冊封という。皇帝の臣下になることを意味した。

本文を補足する「注」は、必要な部分を簡潔に記しました。

東アジア諸國は唐を中心とする文化圏に入ったが、日本も唐の文化を積極的に取り入れようとし、8世紀に入るとほぼ20年に1度の割合で遣唐使を派遣した。遣唐使は多いときで約500人の人びとが4隻の船に乗って渡海した。日本は唐からの冊封はうけなかったが、実質的には唐に臣下として従う朝貢であった。航路は、初期には朝鮮半島沿いの北路をとったが、8世紀以降新羅との関係が悪化すると、東シナ海を横断する南路をとった。

使節や留学生は困難を乗り越えて唐のさまざまな文物・制度を輸入し、留学僧もあらたな仏教の経典などをもたらした。留学生のなかには、玄昉や吉備真備のように、帰国後に中央政界で活躍する者もでた。また、唐僧の鑑真は、何度も渡航に失敗したが、ついに日本に戒律を伝えた。

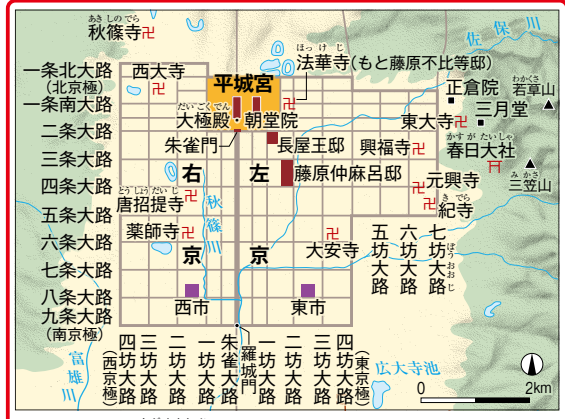
朝鮮半島の新羅や、中国東北部に建国された渤海との交渉もさかんであった。日本は新羅を従属国として扱おうとしたため、新羅との関係は緊張することもあった。9世紀になると、新羅の公式な使節にかわって、商人たちが貿易のために来日するようになった。渤海は8世紀前半から使節をしばしば派遣し、日本に従う形をとり、友好的に通交した。



1 8世紀中頃の東アジアと日唐交通路 遣唐使の航路は、初め北路をとったが、新羅との関係が悪化した8世紀以降にはより危険な南路をとった。

平城京の繁栄 710(和銅3)年に、都が藤原京から平城京に移された(遷都)。この年から長岡京をへて平安京に都が移るまでの約80年間を奈良時代とよぶ。律令国家のしくみは、この時代にほぼ整備された。

平城京は唐の都長安にならい、左右両京を道路で碁盤の目のように区画し(条坊制)、北部中央の平城宮に天皇の住まいである内裏、政務や儀式の場である大極殿・朝堂院や政府の役所などをおいた。京内で



2 平城京図 朱雀大路を中心に左京・右京にわかれ、東市・西市がおかれた。中国の都城にみられる全体を囲む城壁はなかったとされる。長岡京に遷都後、大寺院周辺を除いて水田化した。



3 平城宮跡 朱雀門と大極殿が復元された。(奈良県)



4 富本銭(左)と和同開珎(右、銅銭) 富本銭(銅銭)は、奈良県の飛鳥池遺跡で製作工房跡が発見され、和同開珎(銀銭・銅銭)よりも古い銭貨であることがわかった。(実物大。左:奈良文化財研究所蔵。右:日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵)

図や地図、グラフはカラーユニバーサルデザインに配慮し、見やすい配色や線種で作成しています。

は五条以北の平城宮の近くに貴族たちの大邸宅がたちならび、八・九条の宮から遠い地区には下級官人たちの小規模な住宅が分布していた。人口は約10万人といわれる。寺院は、大安寺・薬師寺・元興寺・興福寺、のちには東大寺・西大寺などの大伽藍がたちならんだ。

左右の両京には東西の市が設けられ、市司がこれを監督した。市では、地方から運ばれた産物や官人に支給される給与の布などが交換された。

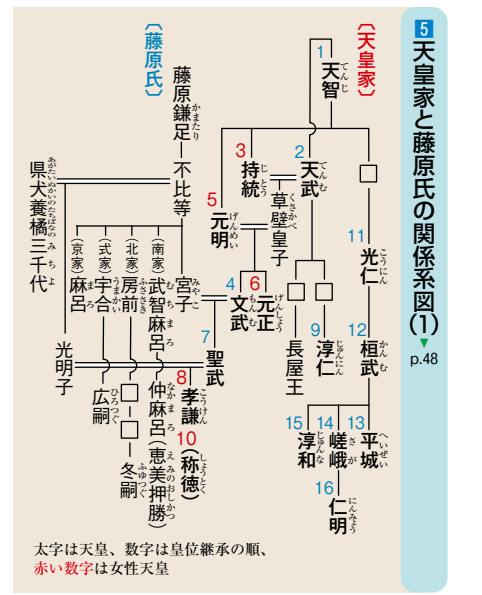
また、7世紀後半に製作された富本銭のあと、和同開珎などの銭貨もつくられて、都や畿内を中心に流通した。

道路も都から地方に直線的にのびる官道が整備され、約16kmごとに駅家を設けて、都と地方との連絡にあたる官人がこれを利用した。

政府は東北地方に住む蝦夷を服従させ、領土の拡大をはかった。日本海側に出羽国をおき、ついで秋田城を築き、太平洋側の陸奥国には多賀城を築いて、それぞれ出羽・陸奥の政治や蝦夷対策の拠点とした。一方、九州南部の隼人とよばれた人びとが住む地域には薩摩国、ついで大隅国をおいた。

政治・社会の動揺 律令国家の建設に功績をたてた藤原氏は、天皇家に近づいて勢力を強めた。729(天平元年)年、藤原不比等の子どもの4兄弟は、左大臣長屋王を自殺に追いこみ(長屋王の変)、不比等の

2 和同開珎のあと、10世紀なかばの乾元大宝まで、12回の銭貨鑄造がおこなわれた(本朝〈皇朝〉十二銭)が、国家的銭貨の始まりは7世紀後半の富本銭にさかのぼる。





6 「長屋親王」の文字がみえる木簡

平城京左京の長屋王邸の遺跡から出土した、王家への貢納品につけられた荷札。(長さ21.4cm。奈良文化財研究所蔵)



現代語訳

① 仏教を興隆し、衆生を救おうという願い。② 華嚴経の本尊。仏国土をあまねく照らす仏。

8 大仏造立の詔
詔して曰く、「……粵に天平十五年歲次癸未十月十五日を以て、菩薩の大願を發して盧舎那仏の金銅像一軀を造り奉る。……夫れ天下の富を有つ者は朕なり。天下の勢を有つ者も朕なり。この富勢を以てこの尊像を造る。……」と。
(統日本紀)



現代語訳

7 国分寺建立の詔
詔して曰く、「……宜しく天下諸国をして各敬みて七重塔一区を造り、并せて金光明最勝王經・妙法蓮華經各一部を写さしむべし。……僧寺には必ず甘僧有らしめ、其の寺の名を金光明四天王護国之寺と為し、尼寺には一十尼ありて、其の寺の名を法華滅罪之寺と為し、両寺相共に宜しく教戒を受くべし。……」と。
(統日本紀)

娘の光明子を聖武天皇の皇后にたてることに成功した。これは皇族出身ではない皇后の最初の例となった。

ところが、藤原4兄弟はあいついで疫病で倒れ、その後は、皇族出身の橘諸兄が政権にぎり、唐から帰国した玄防や吉備真備が活躍した。これに反発した藤原広嗣は、九州で乱をおこしたが敗死した(藤原広嗣の乱)。

疫病の流行や政情不安のなかで、聖武天皇は恭仁・難波・紫香楽と都を移し、この間の741(天平13)年に国分寺建立の詔7、743(天平15)年には大仏造立の詔8を出し、仏教の力により国家がまもられ安定するよう願った。東大寺大仏はこうした背景のもとで造立され、752(天平勝宝4)年、孝謙天皇のときに、大仏開眼の儀式がおこなわれた。

孝謙天皇の時代には、藤原仲麻呂が光明皇太后と結んで勢力をのばし、淳仁天皇を即位させると、恵美押勝の名をたまわり、権力を独占した。しかし、孝謙太上天皇(のちの称徳天皇)が僧道鏡を寵愛して淳仁天皇と対立すると、仲麻呂はそれに対抗して挙兵したが敗死した(恵美押勝の乱)。道鏡は法王の称号をうけて権勢をふるったが、称徳天皇が亡くなると、藤原氏などの貴族は道鏡を追放し、あらたに天智天皇の孫の光仁天皇をたて、混乱した政治の再建につとめることになった9。

新しい土地政策
自然災害や天候不順に影響されて飢饉も起こりやすく、律令にもとづく支配は、社会の動揺を招いた。農民のなかには、重い負担をのがれるために浮浪や逃亡

③ 太上天皇は讓位した天皇の称。略して上皇ともいう。奈良時代には、讓位後の太上天皇が天皇在位時と同じような権力や権威をもった。

Topic

光仁・桓武天皇と皇統の交代

天智天皇の孫白壁王は称徳天皇の死後、光仁天皇として擁立された。皇后には井上内親王(聖武天皇皇女)、皇太子にはその子他戸親王が立ったが、のち廃された。藤原氏の支援もあり、高野新笠のうんだ山部親王がかわって皇太子となり、称徳天皇までの天武系の皇統から天智系へと移った。

する者も多くなった。また、人口が増加すると口分田は不足し、それに対応して安定した税を確保するためにも、政府は土地の制度を見直すことになった。

政府は耕地をふやそうとして、722(養老6)年、長屋王のもとで百万町歩の開墾計画をたてたが成果はあがらず、翌723(養老7)年には、三世一身法10を出した。この法は、新しく灌漑施設をつくって田を開墾した者には3世(本人・子・孫)にわたる私有を認め、すでにある灌漑施設を利用した開墾地は本人に限り私有を認めるというものであった。期限つきで土地の私有を認めて開墾を奨励したのである。

さらに743(天平15)年に墾田永年私財法11を出し、位階や役職によって開墾できる面積を定めて、開墾した土地の永久私有を認めるにいたった。この法は、未開地を開墾した墾田にまで政府の支配がおよぶようにする積極策であったが、莊園という大土地所有が広がる原因ともなった。墾田永年私財法が出ると、力のある中央貴族や寺院などは、きそって山野の開墾に乗り出した。これを初期莊園とよぶ。初期莊園はのちの莊園とは異なり、律令国家の力を背景とし、国司・郡司の地方統治のしくみを利用してつくられたもので、郡司の力が弱まると衰えていった。

関連する叙述を参照するための「参照ページ」を付しました。

10 三世一身法

太政官奏すらく、「頃者百姓漸く多くして、田池窄狭なり。望み請ふらくは、天下に勸め課せて、田疇を開闢かしめん。其の新たに溝池を造り、開墾を営む者有らば、多少を限らず、給ひて三世に伝へしめん。若し旧き溝池を逐はば、其の一身に給せん」と。
(統日本紀)

現代語訳

11 墾田永年私財法

詔して曰く、「聞くならく、墾田は養老七年の格に依りて、限満つる後、例に依りて収授す。是に由りて農夫怠倦して、開ける地復た荒る、と。今より以後、任に私財と為し、三世一身を論ずること無く、咸悉くに永年取る莫れ。……」と。
(統日本紀)

現代語訳

- ① 太政官が天皇に上申する書。
- ② せまい。
- ③ 本人・子・孫の三代。子・孫・曾孫の三代とする説もある。
- ④ 既設の溝や池を利用して開墾した場合には。

9 8世紀の政情(月は陰曆)	
720	8 藤原不比等、死去
721	1 長屋王、右大臣となる
729	2 長屋王の変
	8 光明子、皇后となる
734	1 藤原武智麻呂、右大臣となる
737	疫病流行、武智麻呂ら4兄弟死去
738	1 橘諸兄、右大臣となる
740	9 藤原広嗣の乱
	12 恭仁京に遷都
745	5 平城京へもどる
752	4 東大寺大仏開眼会
757	7 橘奈良麻呂の変
760	1 藤原仲麻呂、大帥(太政大臣)となる
761	僧道鏡、孝謙太上天皇を治療
764	9 恵美押勝(藤原仲麻呂)の乱
765	閏10 道鏡、太政大臣禪師となる
769	9 宇佐八幡神託事件
770	8 道鏡を下野に追放
	10 光仁天皇即位

Q 墾田永年私財法が律令国家を崩壊させたのだろうか。

④ 莊園(莊)とは、開墾した土地にたてた別宅や倉庫などと、まわりの墾田とを合わせたものをいう。

3 律令国家の文化

白鳳文化

7世紀後半から8世紀初頭にかけて、天武天皇と持統天皇が築いた藤原京を中心に、あらたな傾向の文化が花開いた。天皇の権威が高まり、新しい律令国家を建設しようとする意欲に満ちていた時代の文化で、これを白鳳文化とよぶ。

飛鳥時代にさかんになった仏教は、国家の保護をうけてさらに発展し、地方にも広まった。仏教をあつく信仰した天武天皇によって、薬師寺などの大寺院がたてられるとともに、国家が寺院・僧侶を強く統制するようになった。また、国家による神社の編成もすすみ、とくに伊勢神宮が重んじられた。

文芸の面では、宮廷で漢詩文がさかんになったほか、和歌も漢詩の影響をうけて五七音の詩型が定まり、柿本人麻呂らの歌人が、心情を素直に表現する歌をよんだ。

美術の面でも、唐代初期の影響をうけた作風が開花した。建築では、平城京に移った薬師寺の東塔が白鳳様式の美しさを伝えているといわれ、彫刻では、興福寺仏頭などの金銅像が、人間的で若々しい時代の雰囲気であらわしている。絵画では、高松塚古墳の壁画が、中国や朝鮮半島の影響をうけているとされ、焼損した法隆寺金堂の壁画は、インドや西域の様式も取り入れている。

白鳳文化を、天平文化とつなげて記述することで、両者の連続性や相違がわかりやすくなるよう、工夫しました。



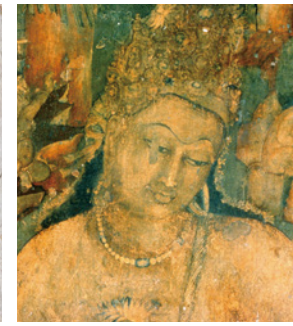
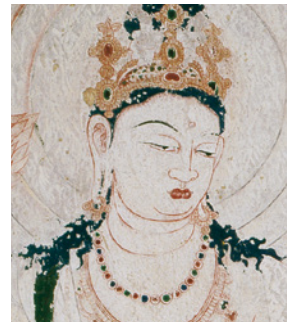
1 薬師寺東塔 三重塔の各層に裳階という小さな屋根がついて、六重塔のようにみえる。730(天平2)年ごろの建築だが、白鳳期の様式を伝えているとされる。(高さ約34.1m。奈良県)



2 興福寺仏頭 もと飛鳥の山田寺の本尊。源平の争乱のころ、興福寺の僧徒がもち去り、東金堂の本尊としたが、室町時代の火災で頭部のみが残った。(高さ98.3cm。奈良県)



3 薬師寺金堂薬師三尊像 中央の薬師如来にむかって左が月光菩薩、右が日光菩薩である。金銅像で、当初は鍍金されていたが、火災により現状は黒光りしている。(中央の像は高さ254.7cm)



4 法隆寺金堂壁画(左)とアジャンター石窟寺院の壁画(右)にえがかれた菩薩像 法隆寺壁画の顔の表情やするどい輪郭線に、インドの壁画からの影響がみられる。



5 高松塚古墳壁画 宮廷につかえる女性たちをえがいたもので、当時の服装などがわかる。中央の女性像は約40cm。(奈良県、国(文部科学省所管)、明日香村教育委員会)

天平時代の文芸と学問

奈良時代に平城京を中心に栄えた文化は、律令国家の繁栄を背景とした、はなやかな貴族文化であった。この文化を、聖武天皇の時代の年号をとって天平文化とよぶ。遣唐使がもたらした最盛期の唐文化の影響が強い、国際色豊かな文化である。

律令国家としての意識の高まりは、歴史書の編さん事業にあらわれている。天武天皇のころから始まっていたその事業は、712(和銅5)年の『古事記』、720(養老4)年の『日本書紀』となって実を結んだ。『古事記』は天武天皇が稗田阿礼によみならわせた内容を太安万侶が記録したもので、朝廷の伝承がまとめられている。『日本書紀』は中国の歴史書の体裁をふまえて編さんされた最初の漢文体の史書である。これをうけて、10世紀の初めまで国家事業として史書の編さんが続き、『日本書紀』をふくむいわゆる六国史がつけられることになった。また政府は、諸国に対して国内の地理・産物・伝説などをまとめるよう命じ、風土記が編さんされた。

文芸では、漢詩文が貴族の教養として重んじられ、淡海三船らの文人が出た。和歌では、山上憶良・大伴家持らの歌人が出て、個人的な短歌や長歌をよんだ。8世紀末には『万葉集』が編集され、天皇や貴族の歌とともに、東歌・防人歌など地方農民の素朴な歌もおさめられた。それらの歌は、万葉仮名をもちいつつ、漢字の音・訓をくみあわせて表記されている。

教育機関としては、中央に大学、諸国に国学がおかれ、貴族や豪族の子弟を対象に、儒教の経典を学ばせるなどの教育がおこなわれた。

Q 天平文化の国際性はどのような背景によってうまれたのだろうか。

本文を読む際の着眼点となる「Q(問い)」を設けました。学習の要点を捉えやすくするとともに、考察を促します。(解答例は、教師用指導書で扱っています)

Q 律令国家はなぜ六国史や風土記を編さんしたのだろうか。

1 現存最古の漢詩集『懷風藻』が編さんされた。



6 唐招提寺金堂 唐招提寺は鑑真の創建。金堂は奈良時代建築の代表で、前面に吹き放しの柱を8本ならべ、外側ほど柱の間隔をせましく、重い屋根を支えている。770年代。(正面約28m。奈良県)



7 正倉院宝庫 もと東大寺の倉。左から南倉・中倉・北倉で、南北両倉は三角材を横にして壁を組みあげた校倉造の構造をもつ。(正面約33m。奈良県)



8 過去現在絵因果経 釈迦の伝記を記した因果経を下段に書き、上段にその内容に応じた絵をえがいた巻物。原本は唐で制作されたという。(部分、東京藝術大学蔵)



10 東大寺法華堂執金剛神像 右手に金剛杵という法具をもち、怒りの表情で法華堂の鬼門をまもる。金剛力士像としては最古とされる。塑像。(高さ約173cm。奈良県)

2 経典の研究によりわかれた三論・成実・法相・俱舍・華嚴・律の6宗。

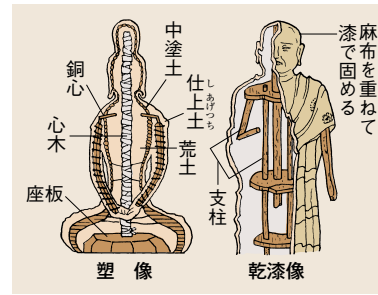
文化史は、特集ページとせずに、本文と関連付けてレイアウトしました。写真を大きく豊富に掲載し、ていねいな解説を付しました。



9 興福寺阿修羅像 仏をまもるインドの神である八部衆の1つ。うれいをただよわせる少年のような表情、三面六臂の大胆な空間表現に特色がある。乾漆像。(高さ約153cm。奈良県)

仏教は、仏法の力によって国家を安定させるといふ鎮護国家の思想のもとに、国家の保護をうけてさらに発展した。平城京には政府によって大寺院がたてられ、多くの僧侶が集まって仏教の興隆にはげんだ。僧侶たちは寺院のなかで活動し、国家をまもるための経典を読んだり、のちに南都六宗とよばれる諸宗の仏教理論を研究したりした。寺院外での活動は政府によりきびしく規制されたが、行基は民衆への布教や社会事業に力をつくり、のちに政府からその功績を認められた。そのほか、唐から来日して僧侶に戒律をさずけるしくみをととのえた鑑真なども、仏教の興隆に大きく貢献した。

美術では、全盛期の唐の影響を強くうけつつ、仏教絵画などがえがかれた。建築では、寺院建築の技法がいっそう発達し、



11 仏像の技法 塑像と乾漆像 塑像にくらべ乾漆像は手間がかかるが、最後に芯を抜くので仕上がりは軽く、移動も容易である。



14 鳥毛立女屏風(左)と樹下美人図(右) 左は正倉院宝物。右は西域のトルファンの出土(MOA美術館蔵)。木陰にふくよかな女性が立つ構図や服装に共通性がある。(部分)

唐招提寺金堂などの堂々たる建物がつくられた。正倉院宝庫も校倉造の貴重な建物である。

彫刻では、粘土や木でおおよその形をつくり、その上に麻布を貼って、漆などで塗り固めた乾漆像や、木を芯にしてその上を粘土で固めた塑像などの技法がさかんになった。東大寺法華堂に伝えられた仏像群や唐招提寺の鑑真像には、繊細で表情豊かな表現がみられる。また光明皇太后が東大寺におさめた、亡き聖武太上天皇の愛用品を中心とする正倉院宝物のなかには、唐や新羅ばかりでなく、西域・東ローマあるいは西アジア・インドの産品や素材を使ったものもあり、天平文化の国際性を物語っている。



12 唐招提寺鑑真像 日本への渡航にたびたび失敗し、753(天平勝宝5)年に来日した。失明した顔の表情などをきめ細かく表現している。乾漆像。(高さ80.1cm)

約720点の豊富な図版を掲載しました。



15 ガラスの碗 左は正倉院宝物。右はイランの出土品(古代オリエント博物館蔵)。ともにササン朝で製作されたカットガラスの碗。(左、高さ8.5cm)



18 東大寺法華堂不空罽索観音立像 衆生を縛ですくい上げる仏。豪華な宝冠をかぶり、三目八臂の堂々たる体軀に繊細な衣文をほどこす乾漆像(高さ362.0cm)。脇侍の日光(向かって右)・月光(同左)の両菩薩は塑像。2011(平成23)年以前のようす。



16 螺鈿紫檀五絃琵琶 聖武太上天皇の愛用品で正倉院宝物。(全長108.1cm)

Topic 正倉院宝物の国際性 螺鈿紫檀五絃琵琶は、インド起源とされる五絃琵琶の現存する唯一のものである。インド産の木材紫檀を使い、東南アジア産の貝殻を散りばめる螺鈿の技法で細工がほどこされている。表にはラクダに乗って琵琶を弾く西域の人物、裏には中国でデザインされた唐花紋など、異国風の図柄がほどこされている。

絵画から 中世社会をさぐる

歴史資料と各時代の展望では、生徒がさまざまな資料から情報を読み取り、時代の特色について考察することで、その後の学習に見通しをもった授業を展開できます。

中世には絵画が多く制作されたので、それらを見てゆくと人びとの動きやものの見方がうかがえる。それぞれの絵画が何を目的にしてえがかれたのかを考えながら、目をこらし、人びとの行動や背景としてえがかれた風景に注目してみよう。ここでは、中世に一貫して政治や文化の中心であった京都をえがいた作品①～③をならべたので、比較して時代の推移をみてみよう。

『年中行事絵巻』①

保元の乱(1156年)後、乱で荒れた都の再生をはかった後白河上皇の命によって制作された、都とその周辺でおこなわれた年中行事をえがく絵巻である。場面は、二条天皇が年頭の挨拶のため、父の後白河上皇のいる法住寺御所にむかう行幸のようすがえがかれている。

行列を見送る老若男女の表情や姿に注目しよう。家々に門松がたてられているのはなぜだろうか。



①『年中行事絵巻』(朝観行幸の図、田中家蔵)

① 行列のゆく都の大路、それを見つめる町中の人びとの視線、住んでいる家のようにも注目しよう。そのうえで、上皇がどうしてこの場面をえがかせたのかを考えたい。『年中行事絵巻』には、ほかにどのような場面がえがかれたのだろうか。

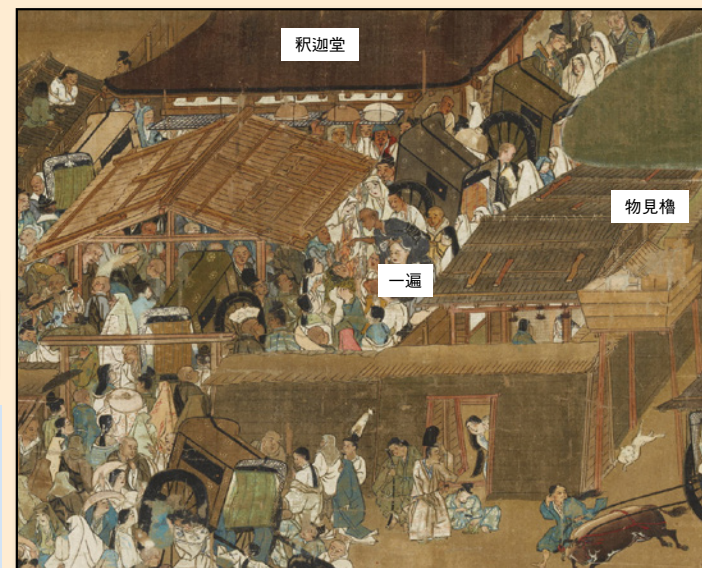
20

『一遍上人絵伝』②

時宗を開いた一遍(→p.83)の生涯を14世紀初めにえがいた絵巻である。各地を遊行しつつ念仏をすすめていた一遍が、京都に入って熱狂的に迎えられる場面である。

資料のどこに注目するとよいか、適宜示しました。

熱狂する群集にはどのような人びとがいるだろうか。年齢・性別・身分などに注目してみよう。物見櫓は何のために設置されているのだろうか。



②『一遍上人絵伝』(巻7、四條 釈迦堂の図、東京国立博物館蔵)



通りにはどのような人びとが往来しているだろうか。



② 踊念仏がおこなわれるのはどのような場所で、どのような人びとがどのようなようすで集まっているのかに注意してみよう。えがかれている建物が何であるか、通りをゆくのはどのような人かについても考えてみよう。念仏が踊りとして舞台でおこなわれた理由も考えてみたい。さらにこの場面の前後には何がえがかれているかを調べてみよう。

10

らくちゅうらくがいずびょうぶ
『洛中洛外図屏風』③

16世紀の戦国時代になると、各地の戦国大名の求めに応じ、京都とその周辺をえがいた屏風絵が数多く制作された。③は、祇園祭の山鉾が、四条大路のつきあたりにある祇園社(八坂神社)へ巡行している場面である。

2次元コードから、細部や前後の画像を参照できます。



③『洛中洛外図屏風』狩野永徳筆 (右隻、部分、米沢市(上杉博物館)蔵)

5

判型を大きくしたことで(A5→B5判)、図版も見やすくなりました。



Q 同じ京都をえがいた絵画なのに、前の絵①②とは違って、③が屏風にえがかれているのはなぜだろうか。

- ①山鉾巡行 神輿につぎ、長刀鉾を先頭に巡行する。山鉾の大きさや数、装飾に注目しよう。祭りに参加している人の衣装と、見物する人びとの姿もくらべてみよう。
- ②風流踊り そろいの衣装や飾りを身につけ、踊りながら通りを練り歩いている。
- ③草鞋を商う店 家のなかの人は何をしているのだろうか。また、家のつくりや屋根のようすにも注目し、p.68①・69②との違いを説明してみよう。

10



3つの絵①～③にはいずれも都大路のにぎわいがえがかれている。つぎのような点に着目して、中世の特徴について仮説をたててみよう。

- ・商工業の発達(見世棚、商人、祭りのようすなど)
- ・さまざまな集団(朝廷や武士、宗教や民衆の組織など)
- ・建物や通りの施設(家、町並み、橋など)
- ・絵画がえがかれた目的(製作者、題材など)

生徒が仮説を表現しやすいよう工夫しました。

15

琉球王国

特集ページ「周辺地域を学ぶ」では、「古代の南九州一隼人」「古代の東北と奥州藤原氏」「琉球王国」「アイヌと和人」の特色ある4地域を取り上げ、**列島の多様性**に目を向けます。

日本の九州・台湾・中国大陸のそれぞれの位置から約500kmの距離があり、古くから東シナ海の海上交通の要衝となってきた沖縄の歴史を振り返ってみよう。

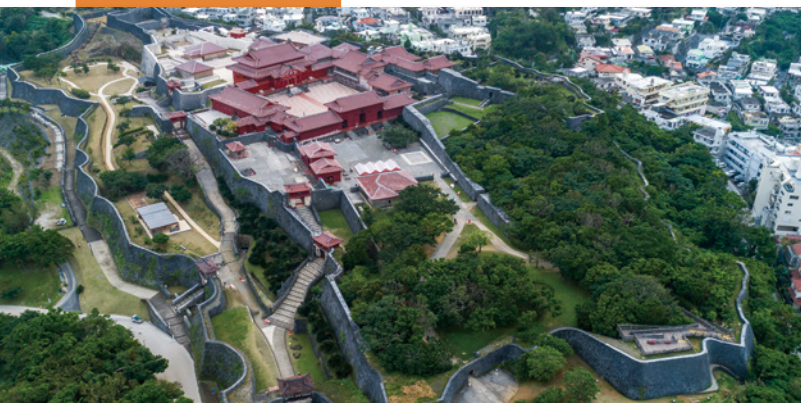
弥生文化は南西諸島にはおよばなかったため、沖縄本島では貝塚後期文化とよばれる食料採集文化が長く続いたが、12世紀ころから米・麦の農耕が本格的に始まり、グスクが形成されていった。グスクは当初は集落や聖地からなっていたが、その指導者である按司の成長とともに、しだいに立派な石垣のグスク(城)がつくられるようになった。13世紀、モンゴルの動きが東アジアに大きな影響をあたえるなか、沖縄本島では各地の按司がグスクを拠点に勢力を広げていき、やがて山北・中山・山南の3つの勢力(三山)に統合されていった。

1372(応安5)年、中山王が明に入貢し、これをきっかけに中国との朝貢貿易が展開されるようになった。1429(永享元年)、中山王尚巴志が三山を統一し、琉球王国をつくり上げると、琉球王国は明や日本などと交易するとともに、海外貿易をさかんにおこなった。

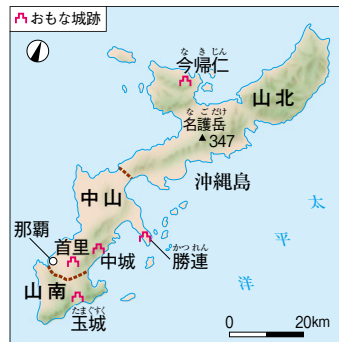
琉球船は東アジア諸国間の中継貿易に活躍し、南方のジャワ島・スマトラ島・インドシナ半島などにまで行動範囲を広げたので、王国の都首里の外港である那覇は重要な国際港となり、琉球王国は貿易立国として繁栄した。その最盛期は16世紀前半であり、その後、ポルトガル・スペインが東アジアへ進出すると、琉球王国の中継貿易の役割は小さくなった。

やがて豊臣秀吉や薩摩の島津氏が服属を求めたため動揺が始まり、1609(慶長14)年に薩摩藩に征服され、王国の体制のまま日本に服属することになった。

なお、14~15世紀から1879(明治12)年の琉球処分まで、琉球王国の王城として栄えた首里城は、1945(昭和20)年の沖縄戦で破壊され、その後復元されたが、2019(令和元)年に再度焼損した。



首里城(沖縄県)



琉球の三山分立

部扉では、**世界史の動き**と関連付けながら、時代の大きな流れを捉えられる年表を掲載しました。

西暦	1600	1650	1700	1750	1800	1850				
時代	安土・桃山	江戸								
文化	(桃山)	(寛永)	(元禄)	(宝暦・天明)	(化政)					
政治	(織豊政権)	(幕藩政治の成立)	(平和と安定)	(幕政改革)	(内憂外患)					
主要事項	室町幕府滅亡 豊臣秀吉、全国統一	江戸幕府成立 文禄・慶長の役	鎖国 英、イギリス革命 ルイ十四世即位	英、名誉革命 ビュートル一世即位	享保の改革 正徳の政治	清、乾隆帝即位	田沼時代 寛政の改革 アメリカ独立宣言	ナポレオン、皇帝即位 フランス革命 ラクスマン、根室に来航	アヘン戦争 天保の改革 異国船打払令	ペリー来航 太平天国の乱
中国	明		清							
朝鮮	朝鮮									



各時代に関連の深い**世界遺産**の写真を取り上げ、解説を付しました。



世界遺産：石見銀山遺跡とその文化的景観(島根県)
16世紀に石見銀山で銀が大増産されると、中国へ大量に流れこみ、東アジアは空前の交易ブームを迎えた。16世紀末にティセラがつくった「日本図」にも石見銀山がえがかれている(上)。下は日本銀「御取納丁銀」(長さ16cm)。(ともに島根県立古代出雲歴史博物館蔵)

近世

近世の幕開け

世界やアジアの交易が活発になるなか、16世紀末には日本全国を統一しようとする天下人が出現した。政治や社会のあり方も変わり、近世という新しい時代が始まったとされている。新しい時代はどのように幕を開けたのだろうか。

日本史探究で重視される、時代の転換を意識した章の導入になっています。

1 天下人の登場

近世への転換

16世紀なかば、ヨーロッパ人は海上航路を開いて拠点をつくり、アジアの交易ルートに参入して、日本に鉄砲やキリスト教を伝え、増産された日本の銀を求めた。国際的な交易が活発となり、外来の技術・思想にどう対応するかが、戦国大名らに問われる時代となった。以後、有力な大名が領国の統合を急速に進め、16世紀末には豊臣秀吉が全国を1つの政権のもとに統合した。秀吉は新しい支配の仕組みを築き上げると同時に、中国への侵攻を掲げて朝鮮侵略を強行し、明を中心とする東アジアの国際秩序を大きくゆるがすことになる。

銀の交易と鉄砲伝来

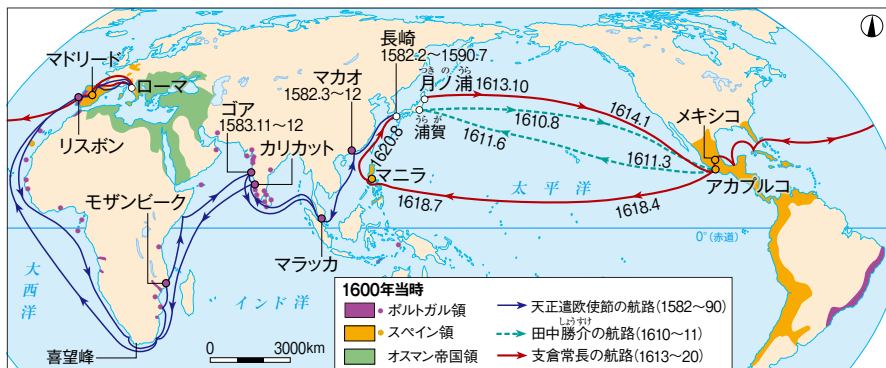
1530年代以降、石見銀山などで銀が大幅に増産された。中国の明は銀で税をおさめさせるようになっていたので、日本産の銀が大量に中国に流れこんだ。そのかわりに中国産の生糸などが日本にもたらされて、貿易が活発になった。ただし明は民間の貿易を認めていなかったため、取締りに対抗して武装した密貿易商人が活躍した。

Topic

世界文化遺産 石見銀山

石見銀山は16世紀前期、博多の商人神屋寿禎によって発見され、朝鮮から精錬技術の灰吹法が伝えられ増産を実現した。17世紀初頭には日本の銀産量は世界の3分の1を占め、ヨーロッパ人は日本を「プラタレアス(銀)の島」と呼んだ。石見銀山は戦国大名の争奪戦の舞台となり、やがて江戸幕府が直轄した。

① 彼らは中国人が多かったが、倭寇とよばれた(後期倭寇▶p.92)。



16世紀の世界と日本人の往来 オスマン帝国領の広がりから、ヨーロッパ諸国は西へ目をむけた。天正遣欧使節(▶p.116)は喜望峰をまわり、支倉常長はメキシコから大西洋を横断して、ヨーロッパをめざした。

一方、ヨーロッパの南西の端にあるポルトガルは、15世紀になるとアフリカへの探検をすすめ、東南アジアの香辛料を求めて、15世紀末にはインドへの航路を開いた。スペインもアメリカ大陸から太平洋を横断してフィリピンへ進出した。ローマ教皇がひきいるカトリック教会も海外への布教をあと押しした。こうして、ヨーロッパを中心に世界の諸地域が広く交流する大航海時代が始まった。

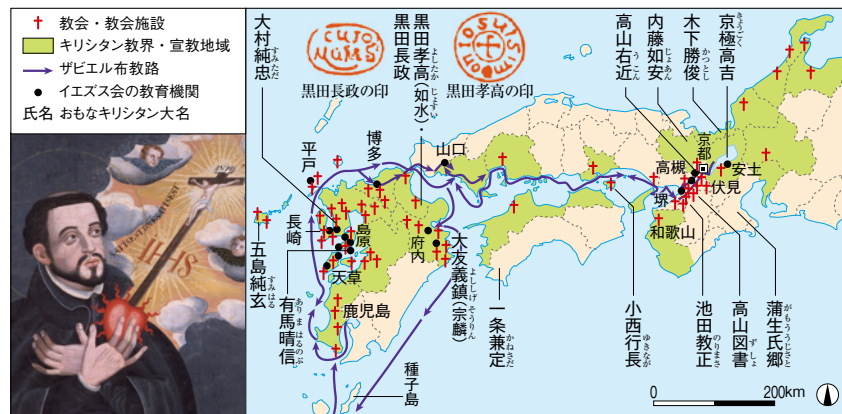
ポルトガルはインドや東南アジアに拠点を築き、1540年代になると九州各地にたどりつくようになった。そして1543(天文11)年、中国商人の船に乗ったポルトガル人が九州南方の種子島に漂着し、鉄砲をもたらした。鉄砲は堺などで製造が始まり、戦国大名のあいだに急速に広まった。

キリスト教と南蛮貿易

1549(天文18)年、カトリック教会の改革派であるイエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが、インドや東南アジアをへて、中国人商人の船で鹿児島に来航し、キリスト教を伝えた。ザビエルのあとも宣教師が来日して、多くの信者(キリシタン)を獲得した。とくに九州の大名の間には貿易の利益を得るためにキリスト教に入信する者(キリシタン大名)があらわれ、家臣や領民にもキリスト教が広まった。中国南部のマカオに進出していたポルトガル商人も中国・日本間の貿易に乗り出し、やがて長崎へ来港し、中国産生糸と日本の銀などの売買を始めた。当時、彼らを南蛮人とよんだので、この貿易を南蛮貿易という。

こうしてアジアの経済交流が活発になり、極東にある日本にも

3 キリスト教の伝播 ザビエルは、鹿児島に来航したのち、上京したが、将軍との会見を果たすことはできず、山口に滞り、日本を退去した。



ザビエル(神戸市立博物館蔵)



2 種子島銃(長さ99.8cm。鹿児島県、種子島時邦蔵)

Topic 鉄砲の伝来と普及

鉄砲の伝来や生産、普及については不明点が多い。当初、贈答品や外交の道具として使われた鉄砲だが、新兵器として認められるやいなや、戦国大名はその確保にとめた。刀鍛冶の高い技術が生かされ、伝来から半世紀のうちに全国に普及し、戦闘や築城の方法にも影響をおよぼした。ただし、当時の鉄砲は射程距離も短く、効果を過大に評価することは早計である。

② 前年の1542(天文10)年とする説もある。

歴史の流れを理解しやすいよう、わかりやすい文章を心がけました。

③ 少し遅れて、スペイン領フィリピンとの間を商船や宣教師が行き来するようになった。日本ではポルトガル・スペインの人びとを南蛮人とよんだ。

Q キリスト教が急速に広まったのはなぜだろうか。



4 織田信長 尾張守護代
織田氏の支流に生まれ、最期は「全日本の絶対君主になる間際であった」(フロイス『日本史』)と評された。(愛知県、長興寺蔵)

5 織田信長の統一事業	
1560	桶狭間の戦い(今川義元敗死)
1568	足利義昭を奉じて入京
1570	姉川の戦い(浅井・朝倉氏を破る)。石山合戦開始
1571	延暦寺の焼討ち
1573	將軍義昭追放(室町幕府滅亡)
1575	長篠の戦い(武田氏敗退)。越前一向一揆平定
1576	安土城を築く(～79)
1580	石山合戦が終わる(本願寺屈伏)
1582	天目山の戦い(武田氏滅亡)。本能寺の変(信長死去)

ヨーロッパの新しい文物が入ってきた。そして支配者たちも、それに対応することが求められる時代になった。

織田信長の政権

戦国時代になって衰退し

いた室町幕府に終止符を打ち、全国統一に乗り出したのが**織田信長**とそれに続いた**豊臣秀吉**である。2人の政権をあわせて織豊政権とよぶ。

尾張の織田信長**4**は、1560(永禄3)年、駿河などの大名今川義元を破ると(桶狭間の戦い)、三河の徳川家康と同盟を結んだ。そのころ將軍が政変で殺害され、その弟足利義昭から幕府再興の働きかけをうけると、やがて軍勢をひきいて義昭とともに京都にのぼり、幕府を再興させた。また領国内の関所で通行料をとることを禁じ、商業都市として繁栄していた堺の支配にも乗り出した。

しかし、なお敵対する勢力が多く、1571(元亀2)年にはその1つで、仏教の中心地であった比叡山延暦寺を焼討ちした。やがて足利義昭と対立すると、1573(元亀4)年に京都から追放した(室町幕府滅亡)。1575(天正3)年には三河の長篠の戦いで、徳川家康を助け、大量の鉄砲を使って甲斐の武田氏を破った**6**。

翌年には近江の琵琶湖畔に**安土城**を築き始め、その城下町を楽市として商業税を免除し、普請や伝馬**6**の負担も免除して繁栄をはかった。1580(天正8)年には、長らく激闘をくり広げてきた一向一揆の中心である本願寺を屈服させ、大坂から退去させた。1582(天正10)年に甲斐の武田氏をほろぼすと、東日本の大名の多くが服属の姿勢をみせ、天下人としての名声を高めた。しかし、まだ敵対していた四国・中国地方の大名

本文と図版の対応がわかりやすいように、番号を付しました。

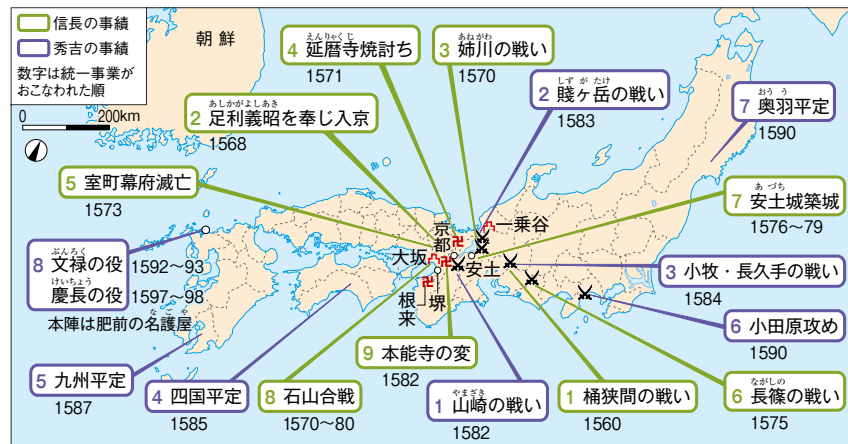


信長が関所で通行料をとることを禁止したのはなぜだろうか。それによって誰が利益を得て、誰が損をしたのだろうか。

普請は土木工事、伝馬は馬で人や荷物を運送すること。



6 鉄砲隊の活躍 長篠の戦いで、図の左手の織田・徳川の連合軍は、鉄砲隊の威力をいかして右手から攻撃する武田軍を破った。中央を流れる連子川の左手からいっせいに射撃している。(『長篠合戦図屏風』、部分、徳川美術館蔵)



7 信長・秀吉の事績 信長は1560(永禄3)年以降めざましい戦果を上げたが、1582(天正10)年に敗死。秀吉は信長の後継者として統一事業をすすめ、1590(天正18)年に統一を達成した。



8 豊臣秀吉 尾張国中村(現在の名古屋市)に生まれ、織田信長につかえ、異例の出世をとげた。信長の死後、いち早く政治の主導権をにぎった。(京都府、高台寺蔵)

を攻める準備をすすめるさなかに、重臣の明智光秀にそむかれてほろびた(本能寺の変)**7**。

豊臣秀吉の全国統一

同じく信長の重臣だった羽柴(豊臣)秀吉**8**はすぐに光秀を討ち、その後、信長の最有力家臣だった柴田勝家も破って、1583(天正11)年、本願寺の跡地に壮大な**大坂城**を築き始めた。信長の次男信雄および徳川家康とも対戦したが(小牧・長久手の戦い)、信雄と講和して臣従させた。まもなく朝廷で高い地位につき、1585(天正13)年には紀伊や四国などを攻めて支配下におさめ、関白職をめぐる争いに介入してみずからが**関白**についた。翌年には天皇から**豊臣**の姓を与えられた。以後、天皇の権威を利用しつつ諸大名を服属させ、彼らを朝廷の官位につけてみずから下に編成した。

越後の上杉氏や徳川家康を臣従させて東方を固めると、1587(天正15)年には、抵抗していた南九州の島津氏を降伏させ、九州を支配下においた。京都に新しく建設していた聚楽第に本拠を移し、翌年には後陽成天皇を招いて諸大名に政権への忠誠を誓わせた。

関東では小田原の北条氏が領地問題で秀吉の指示に違反したことをとがめ、1590(天正18)年、諸大名を動員して攻めほろぼした。続けて伊達氏ら東北の大名を服属させ、徳川氏を関東へ移し、全国の領主を支配下におさめた**7**。政権は秀吉の独裁に近く、その意思を側近や重臣が大名らに伝達し指導することで、政治が遂行された。

9 豊臣秀吉の統一事業

1582	山崎の戦い(明智光秀敗死) 太閤検地を開始
1583	賤ヶ岳の戦い(柴田勝家敗死) 大坂城の築城開始
1584	小牧・長久手の戦い(家康と和睦)
1585	関白となる。四国平定(長宗我部氏服従)
1586	太政大臣となり豊臣姓をたまわる
1587	九州平定(島津氏服従)
1588	刀狩令
1590	小田原攻め(北条氏滅亡) 奥羽平定(全国統一)

秀吉は関白になったことで、どのような政治的效果を得ただろうか。

年表を適宜設けました。歴史の流れを整理し、視覚的に把握できます。

戦国大名と天下人の印章

戦国時代には大名が印章をもちいるようになった。①の虎の印判状は「領民の財産と生命を守ってゆく」という意味。②はイエズス会を示すIHSと洗礼名フランシスコからとったとされる。③は有名な織田信長の「天下布武」の印。この場合の「天下」は京都周辺をさす。④⑤は秀吉と家康が外交に使ったが、④は「豊臣」と大きく2文字だけ、⑤は「源家康 忠恕」とある。「忠恕」は真心・思いやりを意味する。それぞれの印文から、彼らのどのような政治姿勢を読みとることができるだろうか。考えたり、話しあったりしてみよう。(印章は実寸の3分の1)

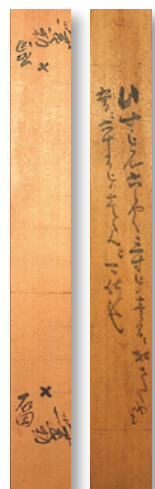


史資料をもとに、解釈したり、説明したり、論述したりする力をつけられるよう、発展的な問いとして「読みとき」を設けました。(解答例は、教師用指導書・準拠ノートで扱っています)

2 豊臣政権と桃山文化

- ① 上田1段は1石5斗などと中世の年貢と比べて大幅に高く設定し、貫高(銭の量)ではなく米の量で表示した。枍もまちまちだったが、京枍を基準として採用した。
- ② 服属した大名が自分の所領に独自の検地をおこなうことも多かった。

領主の転封はどのような影響をおよぼしたのだろうか。



1 太閤検地尺 検地の測量基準となった尺で、表面(左)には奉行石田三成の署名がある。×印のあいだを1尺と定め、寸の目盛りを示す。裏面(右)には、6尺3寸を1間とし、5間×60間=1段と定めることが記されている。1段(反)は約10アールである。島津領検地に使用されたもの。(長さ45.5cm。尚古集成館蔵)

検地と刀狩

近畿地方を根拠とした豊臣秀吉は、惣村の伝統をふまえて、村を単位とする新しい方法で検地をおこなっていった。これを太閤検地とよぶ。あらたな基準で田畑屋敷の面積を1区画ごとにはかり、等級に応じて石高を定め、作人(百姓)を記載した検地帳を作成して村に交付した。領主と百姓とのあいだで地主が小作料をとる権利を認めず、年貢を負担する百姓1人だけの土地所持を認め(一地一作人)、村の力量と責任でまとめて年貢をおさめさせた。また大名にも石高で知行をあたえ、秀吉も近畿地方を中心に220万石をこえる直轄地を確保した。

また秀吉は1585(天正13)年、支配下のほぼ全域で大名の国替(転封)をおこない、武士とその従者(奉公人)、そして百姓のあり方や、きびしい年貢率の基準を定めた。1588(天正16)年には、百姓から刀・脇差などの武具を取り上げる刀狩令を出し、一揆を防止し、

百姓を耕作に専念させる意図を示した。

一方、直轄都市である京都・大坂などでは年貢にあたる地子を免除し、町と村(在方)とを区別した。寺社や公家と結びついた特権的な同業組合である座を解散させ、豪商とも結んで、町での商工業の振興をはかった。但馬の生野銀山などを直轄し、各地の金銀山か

2 刀狩令

1 諸国百姓、刀、脇指、弓、やり、てつはう、其外武具のたぐひ所持候事、堅く御停止候。其子細は、入らざる道具を、あひたくはへ、年貢・所当を難渋せしめ、自然、一揆を企て、給人にたいし非儀の動をなすやから、勿論御成敗あるべし。

2 右取をかるべき刀・脇指、ついにさせらるべき儀にあらず候の間、今度大仏御建立の釘・かすかひに仰せ付けらるべし。然れば、今生の儀は申すに及ばず、来世までも百姓たすかる儀に候事。

3 百姓は農具さへもち、耕作専らに仕り候へハ、子々孫々まで長久に候。

天正十六年七月八日(秀吉朱印)
(小早川家文書)

① 全三条。② 短い刀のこと。③ 農耕に不要な武器。④ 税。⑤ 出ししる。⑥ もしも。⑦ 秀吉や大名から領地を給与された武士。⑧ けしやからぬ行為。⑨ 秀吉が建立させていた京都方広寺の大仏。⑩ 現世。⑪ 耕作に専念すること。



現代語訳

らも運上を取って、直轄地につぐ財政の基盤とし、金銀貨の公定にも乗り出した。

1591(天正19)年には、大陸への侵攻にむけて、全国の国郡ごとに村々の石高を掌握し、大名らを戦争に動員する軍役の基準とした。

- 5 奉公人が町人・百姓になることや勝手にやめることも取り締まった。以上のような政策によって、武士や奉公人と百姓との分離(兵農分離)が定まっていた。

秀吉の外交

秀吉は信長と同じく、当初、キリスト教に好意的であったが、九州を平定すると、教会が長崎を獲得し、キリシタン大名をつうじて信徒に強い力をもっていることを知って警戒し、1587(天正15)年、宣教師に国外退去を命じ(バテレン追放令)、翌年には長崎を直轄地にした。ただし秀吉は貿易には積極的で、貿易は布教と一体化していたため、宣教師の追放は徹底しなかった。

- 15 戦国の世をのし上がった秀吉は、早くから大陸侵攻の意志を示していたが、九州を平定すると対馬の宗氏を通して朝鮮国王に服属と来日を求め、他の近隣諸国へも同様の要求をした。やがて朝鮮が明

③ 京都の金工後藤家につくらせた天正大判がよく知られている。

④ 翌年にも朝鮮へ従軍した奉公人らの逃亡を摘発する法令(人掃令)を出し、町や村の責任で、身分別に家数人数の調査をおこなわせた。

歴史理解の鍵となるキーワードをゴシック体にしてあります。

⑤ 1588(天正16)年には海賊取締令を出して、海上交通の安全を確保した。

秀吉はなぜ大陸侵攻をこころざしたのだろうか。

3 バテレン追放令

1 日本ハ神国たる処、きりしたん国より邪法を受け候儀、太以て然るべからず候事。

2 其国郡の者を近付け門徒にし、神社仏閣を打破るの由、前代未聞に候。

3 伴天連、其知恵の法を以て、心ざし次第第二禮那を持ち候と思召され候へハ、右の如く日域の仏法を相破る事曲事に候条、伴天連の儀、日本の地ニハおかせられ間敷候間、今日より廿日の間二用意仕り帰国すべく候。

4 黒船の儀ハ商売の事に候間、各別に候の条、年月を経、諸事売買いたすべき事。

天正十五年六月十九日
(松浦文書)

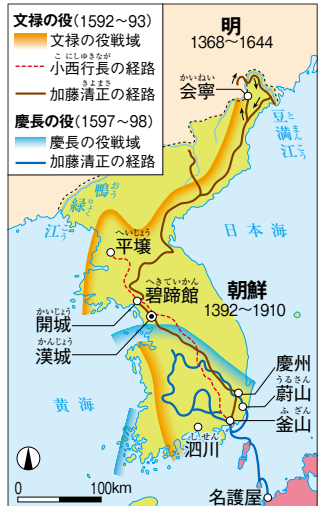
① バテレンはポルトガル語のバードレ(神父)の音訳で、外国人宣教師のこと。② 秀吉が出した追放令の写しで五条よりなる。③ 邪悪な教え。ここではキリスト教をさす。④ 信者。⑤ 信者。⑥ 日本。⑦ ポルトガル・スペイン船。



現代語訳



4 名護屋城 肥前名護屋(現在の佐賀県唐津市)に朝鮮侵略の本陣として秀吉が築いた城。(「肥前名護屋城図屏風」、部分、佐賀県立名護屋城博物館蔵)



5 文禄・慶長の役 朝鮮では壬辰・丁酉倭乱とよぶ。慶長の役では朝鮮半島南半での攻防にとどまった。

6 秀吉は名護屋城へむかう前に関白職を甥の豊臣秀次にゆずり、以降、太閤とよばれたが、1595(文禄4)年には秀次を追放し切腹させた。

7 秀吉は晩年に最有力大名から五大老を、腹心から実務にあたる五奉行を選び、政権の継承をはかった。前者が徳川家康・前田利家・毛利輝元ら、後者が浅野長政・石田三成・増田長盛らである。

ふりがなを丁寧にふりました。

Topic

朝鮮侵略がもたらした陶磁器と降倭(こうわ)

秀吉の朝鮮侵略は、「人さらい戦争」とも呼ばれる。数万人ともいわれる朝鮮人捕虜のなかには日本国内の農業労働力として使われ、東南アジアへ奴隷として売られた人もいた。また、有田焼の李参平のように、連行された陶工によって、日本で磁器が作られるようになった例もある(▶p.132)。一方、朝鮮側に投降した日本軍兵士は降倭と呼ばれ、1万人以上いたと考えられる。

出兵への協力を拒否すると、肥前に名護屋城を築き、1592(文禄元)年、約16万の兵を朝鮮へ送りこんだ。日本勢はまもなく漢城(ソウル)を陥れ、朝鮮全域にまで侵攻した。

だが朝鮮の民衆は日本軍に抵抗し、水軍も補給路を攻撃し、明が軍勢を送って朝鮮を助けたので、日本軍の侵攻はゆきづまった。明との講和交渉が決裂すると、秀吉はふたたび朝鮮に軍勢を送ったが、翌年に死去し、五大老・五奉行が軍勢を撤退させた。この戦争を文禄・慶長の役とよぶ。

朝鮮の人びとは大きな犠牲をしいられ、捕虜もとられて、日本を長くうらんだ。明の衰退にも拍車がかかり、日本でも有力大名どうしで対立が生じ、豊臣政権は動揺した。

桃山文化

秀吉が晩年に居城とした伏見城の地を桃山とよんだことから、織豊政権の時代を安土・桃山時代、この時代を中心とする文化を桃山文化とよぶ。権力や富を集中した天下人や大名、豪商らの勢いが反映された豪華で壮大な文化となった。また仏教色はうすれて、世俗的な色彩が強まった。

桃山文化を象徴するのは城である。平野部に石垣と堀をめぐらした平山城や平城がつぎつぎと築かれ、城下町も巨大化した。城の中心には高層の天守(天主)がそびえ、大広間をもつ書院造の御殿がつくられた。城や寺院の壁や襖には、金箔などの上に青や緑の濃い絵具で着色した障壁画がえがかれた。とくに信長や秀吉につかえた狩野派が活躍した。

芸能と風俗

茶の湯は武将や商人に愛好された。堺の商人千利休は簡素な侘び茶を大成し茶道を確立させる一方で、秀吉らの保護をうけて豪華な茶会ももよおした。



6 姫路城 関ヶ原の戦いののち、池田輝政が着工し、1609(慶長14)年に竣工した。姫山にそびえる平山城で、連立式の天守となっている(本丸・西の丸が現存)。別名白鷺城。(兵庫県)



7 都久夫須麻神社本殿 伏見城から移築したといわれ、透彫や金時絵が残る。(滋賀県)



8 二条城 二の丸御殿大広間 現存する二の丸御殿は1620年代に大改修されたもの。壁面は狩野探幽らによる巨大な松がえがかれ、天井は豪華な二重折上格天井としている。(京都府)



9 「唐獅子図屏風」(狩野永徳筆) 秀吉が毛利征討中、本能寺の変のため急ぎよ和陸した際、毛利輝元におくられた品という。大名の剛毅な気風を伝える。(六曲一双、右隻、縦223.6cm、横451.8cm。宮内庁三の丸尚蔵館蔵)



10 妙喜庵侍庵 千利休が1582(天正10)年につくったとされる、わずか2畳の草庵の茶室。床の間には「妙喜」の掛け軸がかざってある。(京都府)

このころの衣服は、今日の着物につながる小袖がふつうになり、木綿が多くもちいられるようになった。貴人は、はなやかな絹の染織品を愛好した。

庶民の娯楽としては都市で風流踊りがさかんになり、京都で出雲お国(阿国)が、異様な風体でめだとうとする「かぶき者」の姿で踊り(かぶき踊り)し、その後、それをまねて歌舞伎が流行した。節をつけた物語劇を、人形をあやつって三味線の伴奏とともに語る人形浄瑠璃もうまれた。庶民の生活をえがく風俗画の屏風絵も数多く製作された。



11 阿国歌舞伎 男装した阿国が、男優の演じる茶屋女にいいよるといって人気を得た。もっとも古い歌舞伎図屏風で、阿国の歌舞伎姿を追想してえがいたものと考えられている。(「阿国歌舞伎図」、部分、京都国立博物館蔵)

判型を大きくしたことで(A5→B5判)、図版も見やすくなりました。

災害と文化財

特集ページ「身近な文化財をまもり未来につなげること」では、文化財について、さまざまな観点から、文化財保護への理解を深めます。

日本は災害大国といわれるが、そのため貴重な文化財も被災して傷つき、失われるリスクも大きい。2011(平成23)年3月11日に発生した東日本大震災や、2019(令和元)年秋に複数の台風が各地をおそって深い爪痕を残したことは、私たちの記憶にも新しい。

約2万2000人の死者・行方不明者を出し、多くの財産を失った東日本大震災では、同時に文化財の被害も甚大であった。地震とあわせておこった原子力発電所の爆発事故では、周辺住民が強制避難となり、その地域の文化財は置き去りにされたままとなった。

こうした被災文化財の救援や修復のため、多くの研究者や市民の協力のもと、文化財レスキュー活動や、被災建造物の修復にむけた文化財ドクター派遣事業という取組みが展開された。その努力によって、東北4県の歴史や文化を伝える幅広い文化財の多くが救出され、自然史標本なども失われる危機をまぬがれた。

このような動きは、かつて2004(平成16)年の新潟中越地震の際に保全活動が実施されるなど、災害に直面した際に各地で自発的におこっている。また、2019(令和元)年の台風による水害では、文化財を収集・保管する機関である博物館の地下収蔵庫が水没し、大量の文化財に被害がおよんだこともある。この事例では、文化財の救出のために文化庁が主導し、多くの専門機関や専門家による支援体制が組まれた。

今後、文化財保護の重要性がますます高まるなか、私たちは、自分たちの歴史や文化を守り育てるという当事者意識をもって、災害がおきる前の平常時から、身近な地域の文化財を保護することに、目をむけていきたい。



木造家屋に眠っていた古いタンスを運び出す、大熊町の文化財レスキュー隊員＝福島県大熊町大川原で2017年5月30日、土江洋範撮影

文化財レスキュー活動を伝える新聞記事(『毎日新聞』2017年6月11日より)

東京電力福島第一原発事故に伴う避難指示で荒廃した民家から古文書や歴史的遺物などを救い出す「文化財レスキュー」が福島県内の6市町で本格化している。環境省の家屋解体や住民の後片付けの際に誤って処分される恐れがあるため。避難指示を受けた人のうち古里に帰還できたのは1割に満たず、自治体の担当者たちは「古里の歴史まで失いたくない」と懸命だ。5月下旬、全域避難が6年をすぎた大熊町の大川原地区。町職員らでつくるレスキュー隊が、しっくい塗りの蔵も備えた古民家で、ほごりまみれになった漆器を見つけた。

読み

日本の古典の出版

ポルトガル系のローマ字で記述されている。表紙のローマ字が何と書いてあるか、どのような意味か、読み解いてみよう。



13 天草版「平家物語」(大英図書館蔵)



12 南蛮屏風 南蛮人がカピタン(船長)を中心に南蛮寺にむかう場面。寺のなかには南蛮人と日本人の姿もみえる。(部分、南蛮文化館蔵)

Topic

時代に翻弄(ほんろう)された天正遣欧使節

4人の少年使節はローマ教皇に歓迎され、ヨーロッパの人びとに日本の存在を広く知らせた。活版印刷機などをたずさえて1590(天正18)年に帰国すると、禁教が強まっており、彼らを通りかかった運命が待ち受けていた。伊東マンショは布教活動をするが拠点の小倉を追われ長崎で病死、千々石ミゲルは棄教し消息不明、原マルチノは国外追放、中浦ジュリアンは長崎で殉教した。



14 伊東マンショの肖像(イタリア、トリヴルツィオ財団蔵)

ポルトガル語やスペイン語を由来とする外来語は、ほかにもカップ・ボタン・メリヤス・テンプラ・カボチャ・カルタなどがある。

九州のキリシタン大名にゆかりのある少年たちをヨーロッパのローマ教皇のもとへ派遣した(天正遣欧使節)。また金属製の活字による活版印刷術も導入した。以後、キリスト教の書物が翻訳されたり、日本の古典や日本語辞書が出版されたりした(キリシタン版)。

各章の最後に、学習のまとめに最適な「章のまとめの問い」を配置しました。

各部のはじめの章(1・5・8・11章)では、生徒が時代の転換を理解し、「時代を通観する問い」を立てやすいよう、まとめの問いを工夫しました。

第8章 まとめ

- 豊臣政権が築き上げた支配の仕組みは、どのような点で江戸時代に引きつがれてゆくのだろうか。武士・百姓・町人それぞれについて考えてみよう。
- 国際交流の進展や全国統一など、どのように時代が転換したのかに着目し、近世の特徴について、中世や近代とも比較して問いを表現してみよう。

歴史資料と各時代の展望では、充実した解説を付し、生徒がさまざまな資料を活用して考察・表現できるように工夫しました。

議会と選挙権

近代の政治を考えると、基本になるのは議会である。ここでは、議会の成立、選挙権の拡大、民衆の抗議行動に関する資料を通して、議会のありかたの変化をたどり、その変化の理由について考察してみよう。

議会の成立

新政府がはじめて示した「国是」である五箇条の誓文は、「広く会議ヲ興シ万機公論ニ決スベシ」とした。これは幕末から、政権担当者だけでなく、すぐれた人びとが意見を出しあう「公議」によって政策を決定すべきと考えられるようになっていたことをふまえているが、会議をいかなる形で開くのかは明示されていなかった。

1873(明治6)年に、意見の対立から政府を去った江藤新平・板垣退助・後藤象二郎らが翌年に提出した民撰議院設立の建白書¹には、「公議」を

文字史料

1 民撰議院設立の建白
 臣等伏シテ方今¹政權ノ歸スル所ヲ察スルニ、上帝室ニ在ラズ、下人民ニ在ラズ、而シテ独リ有司²ニ歸ス。……政令百端³出暮改⁴、政情実ニ成リ、賞罰愛憎ニ出ツ、言路壅蔽⁵困苦告ルナシ。……臣等愛國ノ情自ら已ム能ハズ、乃チ之ヲ振救スルノ道ヲ講求スルニ、唯天下ノ公議ヲ張ルニ在ル而已、天下ノ公議ヲ張ルハ民撰議院ヲ立ルニ在ル而已。則有司ノ権限ル所アツテ、而シテ上下其安全幸福ヲ受ル者アラン。請フ遂ニ之ヲ陳ゼン。夫レ人民政府ニ対シテ租税ヲ払フノ義務アル者ハ、乃チ其政府ノ事ヲ与知可否スルノ権利ヲ有ス。
 (『日新真事誌』)

現代語訳

おこなうのは国民が選ぶ議員だ、という考え方ははっきりと示され、こののち国会の開設をおもな要求とする自由民権運動⁶(▶p.186)がくり広げられる。

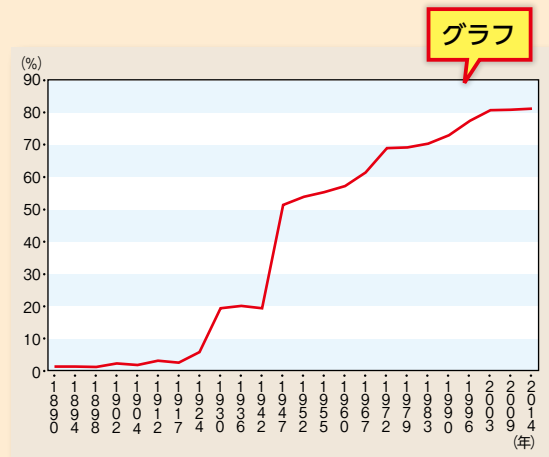
1889(明治22)年に出された大日本帝国憲法が、のちの時代からみれば政府の権限が大きすぎるにもかわらず、民権派によっても歓迎されたのは、議会の開設を定めていたからである。

有権者の拡大

帝国議会の貴族院は皇族・華族や天皇が任命した議員で構成されたが、衆議院は、総選挙で選ばれる国民の代表者からなる「民撰議院」であった。総選挙の有権者は一定以上の税金をおさめる男性に限られたが、民撰議院設立の建白も租税をおさめるからこそ政府の活動を左右する権利があるという考え方を示していた。

その後、選挙権はしだいに拡大され、1925(大正14)年には満25歳以上の男性による普通選挙⁷(▶p.211)が認められ、1945(昭和20)年には満20歳以上の男女に拡大された。以後、2015(平成27)年に18歳以上に拡大されるまで変更はなかった²。

Q どうして選挙権をもつ人の比率が拡大していったのだろうか。それぞれの時期ごとに説明してみよう。



2 総選挙の有権者が総人口に占める比率(総務庁統計局監修「日本長期統計総覧」より作成)

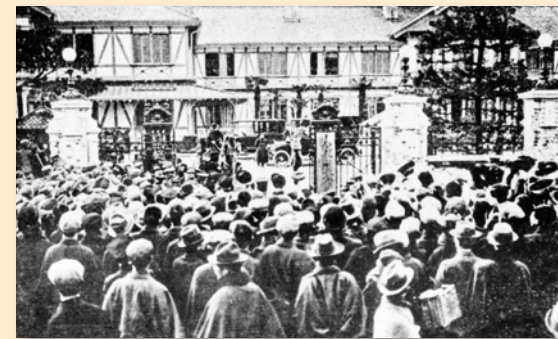
帝国議会から国会へ

皇居の背後の高所から都心部を見下ろす絶好の位置にたつ国会議事堂は、1936(昭和11)年に帝国議会議事堂として竣工した。その位置は1920(大正9)年の着工時ではなく、帝国議会が開設される前から決められていた。ふさわしい建物がたえられるまでは、別の場所の木造の仮議院がもちいられていたのである。しかし、建物は同じでも、1946(昭和21)年の日本国憲法によって、法律や予算を「協賛」する帝国議会は国権の最高機関としての国会にかわり、貴族院も普通選挙によって議員が選ばれる参議院へと変化した。

Q なぜ、この時期に議事堂が建築されたのだろうか。

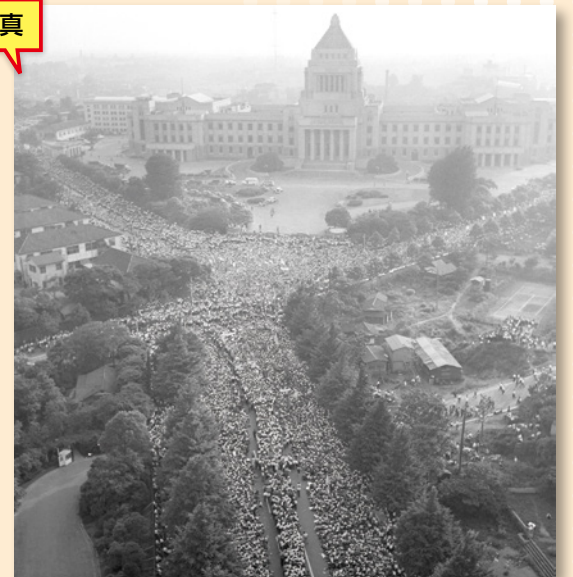
議会におしかけた民衆

議会に民衆がおしかけることは帝国議会時代からあった。1913(大正2)年2月には、陸軍大臣の辞表提出で退陣をよぎなくされた立憲政友会の西園寺公望にかわって桂太郎が3度目の首相となったが、衆議院に基盤がとほしい桂に対し立憲政友会や立憲国民党は内閣不信任決議案を提出し、多くの人びとが議会におしかけた。当時は衆議院が内閣不信任案を可決しても首相が退陣する必要



3 第1次護憲運動 帝国議会におしかけた人びと。木造の仮議院であった。

写真



4 デモ隊に囲まれる国会議事堂

はなかったが、桂は議事を停会し、支持を拡大することが難しいと悟ると辞職した(大正政変、▶p.201)。この運動を第1次護憲運動という³。

1960(昭和35)年には日米相互協力及び安全保障条約(新安保条約)の批准に反対する人びとが、連日国会におしかけた(安保闘争、▶p.262)⁴。当時の首相岸信介は、両院で過半数を占めた自由民主党を背景としていたので、衆議院に警官隊を導入して野党議員の座り込みなどの反対をおさえ、批准を可決した。しかし、反対運動はおさまらず、国会議事堂周辺では死者も生じ、岸首相は批准の成立後に辞職した。

どうして、選挙による議会がありながら、人びとが議会におしかけたのだろうか。戦前と戦後を比較しながら、それぞれ理由を説明してみよう。また、どのような人びとが議会に何を期待したかに注目して、近代・現代の政治の流れについて自分なりの仮説を表現してみよう。

『高校日本史』の特色

1 要点をおさえた、わかりやすい教科書。

- 『詳説日本史』の章立てに準拠し、**内容と構成を簡潔に**工夫しました。
- 生徒が自ら読んで理解できるよう、歴史の基本的な流れを、**わかりやすい文章**で叙述しました。また、ふりがなを丁寧にふり、注も少なくし、本文の読みやすさを第一に考えました。

2 興味・関心を高める工夫と、豊富な史資料。

- **史料の現代語訳**や拡大画像などを参照できる69点の「2次元コード」。
- 史資料をもとに解釈・説明・論述するための発展的な「読みとき」。
- 生徒の**興味をひきだす**エピソードを紹介する75点の「Topic」。
- 文化財や列島の多様性など、様々な観点を提供する8点の「特集ページ」。
- 視覚的なイメージを持てる**約720点の図版**を掲載。
- 教科書の判型を大きく（**A5判→B5判**）し、図版を大きくレイアウト。

『高校日本史』の著作者

[編者]

佐藤 信	東京大学名誉教授	高埜 利彦	学習院大学名誉教授
五味 文彦	東京大学名誉教授	鈴木 淳	東京大学教授

[著作者]

老川 慶喜	立教大学名誉教授	村 和明	東京大学准教授
大津 透	東京大学教授	山口 輝臣	東京大学教授
早乙女雅博	東京大学名誉教授	湯川 文彦	お茶の水女子大学准教授
坂上 康俊	九州大学名誉教授	吉田 伸之	東京大学名誉教授
桜井 英治	東京大学教授	渡邊 宏明	海城中学高等学校教諭
設楽 博己	東京大学名誉教授	會田 康範	学習院高等科教諭
高橋 典幸	東京大学教授	大熊 俊之	埼玉県立不動岡高等学校教諭
沼尻 晃伸	立教大学教授	多田万里子	埼玉県立熊谷西高等学校教諭
牧原 成征	東京大学准教授	豊田 基裕	東京都立大江戸高等学校教諭
三枝 暁子	東京大学准教授		
三谷 芳幸	筑波大学准教授		

B5判(257mm×182mm) 302頁

● 写真	519点	● 地図	63点	● グラフ・図	144点
● 文字史料	74点	● 二次元コード	69点		(グラフ39+系図14+図63+表28)

